

令和6年度第1回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会 議 名 令和6年度第1回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 令和6年7月22日（月）午後2時00分～3時00分
3. 開催場所 木更津市役所朝日庁舎 会議室E
4. 出 席 者 市史編集委員会委員 出席10名
成田篤彦委員長、實形裕介副委員長、小沢洋委員、石和田秀幸委員、盛本昌広委員、
大関真由美委員、駒早苗委員、島立理子委員、佐藤千明委員、安田貴之委員
教育委員会事務局6名
廣部昌弘教育長、小高幸男教育部長、水越学教育部次長兼文化課長、
酒巻忠史課長補佐、平野佐知恵係長、稲葉昭智副主幹
5. 議題及び公開又は非公開の別
報告事項 令和5年度活動報告及び令和6年度活動計画（公開）
「木更津市史 史料編4 古代」刊行及び「木更津市史 自然編 資料」公開について
6. 傍聴人 なし

平野係長：それでは、令和6年度第1回木更津市史編集委員会を開会いたします。

会議につきましては、付属機関設置条例第6条第2項の規定により、成立しております。

また、会議は公開で行いますので、ご了承ください。

本日傍聴人はおりません。

はじめに廣部教育長より、ご挨拶申し上げます。

【廣部教育長挨拶】

平野係長：それでは、会議に入ります。会議に入る前に資料確認をお願いいたします。

【資料確認】

平野係長：それでは、次第に沿って進行させていただきます。

会議開催にあたり木更津市史編集委員会 成田委員長からご挨拶を申し上げます。

【成田編集委員長挨拶】

議長は編集委員長が務めることになっておりますので、これからの議事進行を成田委員長をお願いいたします。

成田委員長：これより、議長を務めさせていただきます。本日の次第に沿って進めます。

それでは各部会の報告事項、令和5年度活動報告及び令和6年度活動計画について事務局の説明をお願いいたします。

平野係長：資料をご覧ください。木更津市史編さん部会活動報告及び活動計画について、報告いたします。

1 ページ目は考古部会となっております。現在令和7年度末の編集完了を目指して、編さんを進めているところでございます。

次に古代部会。資料2 ページ目をご覧ください。現在「史料編4 古代」の刊行が昨年度末に完了したところでございます。通史編の原稿執筆に向けての準備、また現在刊行されております史料編4の記述内容点検等を行い、正誤表などの作成を行っております。

資料3 ページ目、中世部会。中世部会につきましては、現在、部会会議の開催に向けて努力をしているところです。また、調査を進めていく中で、文化課に調査先希望の申出がでています。

つづきまして、近世部会。現在資料調査をしておりますが、刊行に向けて準備を進めているところです。

近現代部会。こちらも資料調査を進めているところですが、令和7年度に、史料編8 近現代1の刊行予定がございます。来年度に刊行が近づいてきていますので、掲載資料の選定に入るところと伺っております。

次は民俗部会でございます。昨年度からコロナウィルス感染症のため、中止していた聞き取り調査を再開するほか、文献調査等の活動をしています。特に金田地域を中心に聞き取りや現地調査を進めていますが、機会があれば他の地域の資料についても調査を行っています。

最後に自然部会でございます。昨年度末に「木更津市史 自然編 資料」のデジタルアーカイブへの公開を行いました。

今年度、自然編資料については、刊本での印刷製本を行うことになっておりますので、その準備を進めています。また、本編についても、目次の検討や現地調査の追加等、準備を進めているところでございます。

各部会の進捗及び、活動計画については、以上となっております。

成田委員長：有難うございました。ただいま事務局から、報告を頂きましたけれども、このことについて何か質問がありませんか。部会ごとに追加するような説明はございますか。例えば、考古部会で編集委員として、何か追加するようなことはございますか。

小沢委員：考古部会からは特にありません。

成田委員長：考古部会へご質問ございませんか。

順番に聞いていきますので、よろしくお願いいたします。
古代部会でなにか、追加するようなことはございますか。

石和田委員：今日はこの会議に出席していらっしゃいます、廣部教育長には、このように「史料編4 古代」を刊行していただいて、完成したものを見ることができたこと、感謝しております。

また、小高教育部長には、以前文化課におられた際に我々以上に内容をみていただいておりました。ありがとうございました。

事務局の文化課には細かいところまで、いろんな注文をしたんですけれども、それを確実にやっていただいて、これもまた感謝しております。

刊行されたというところで、これからの問題点と思われたのは、例えば口絵がありますけれども、口絵で使用する写真について権利を持つ機関に、無償で提供していただけののか、使用料がいるのかというところではいくらか必要だったところもあります。

他の史料編も今後刊行されますが、使用料は交渉して金額が確定するというところがありましたので。

また、古代のほうは、通史編に向けて編さんを進めていきますが、考古と重なる部分がありますので、考古部会の方とかなり、詳しい打合せをしないと難しいかなと、思っております。

それから、細かく言うとあれなんです、通史編の場合はページ数で執筆料が決まってくるということなんですけれども、実際、文字でも図版や写真でも同じ1ページになってしまうというところについては心配しています。ちょっとだけ頭の中に入れていただいて、検討していただければと思っております。

成田委員長：有難うございました。なにか事務局からありますか。

平野係長：部会長会議などに諮っていきたいと思っております。

成田委員長：わかりました、他にございますか。古代について。

では次に、中世部会についてなにかございますか。

盛本委員：調査について、これに書いたもの以外で、追加があります。まず、東京にいろんな施

設がございます、たとえば国会図書館ですね。駒場、尊経閣文庫というのがいわゆる前田家が持っていた資料を所蔵している機関なんですけど。ここにも関連する資料がかなりありますので、今後そういうところの調査をしたいと考えています。遠くなりますが中世の場合は京都が中心なので、京都に沢山資料がありますから、今後調査を計画したいと思っています。

「史料編5 中世」の体裁として、資料を載せるのはもちろんですけど、それに注釈を加えるとか、解説を加えるとかはしたいと思っています。特に中世だと専門用語が多いので、一般の方にはちょっとわからないです。そういった難しい言葉に注釈を入れるのと、地名とか、人名が出てきますと、この地名は何市のどこだとか、人名は誰なのかとか。特に中世の場合だと、人名がはっきりでてこないで、左衛門尉などで資料に出てくることが多いので、注釈をつけたりします。近年、他の自治体でもそういうやりかたをするのが一般的ですので、体裁も部会内で、今後話し合っ決めていきたいです。決まりましたら、事務局と相談しながら、どのような体裁で刊行するのか進めていこうと思います。

成田委員長：有難うございました。なにか今の件についてのご意見よろしいですか。

では次にまいりまして、近現代部会、質問、その他追加ありますか。

駒委員：すみません、この資料にも載っていますが、近世と近現代にまたがって、建物調査が行われているんですが、現段階では、ほぼ、明治以降の建物の調査です。その建物調査の部分を近現代の史料編に入れるのか、通史のなかに入れるのか、独立させるかっていうのが、近現代部会のなかでは問題になっているところで、近現代部会で建築部門の方と相談して出した結果は、できれば別の刊行物として、厚みはそうはないと思うんですけど、刊行したいと。やっぱり貴重な調査結果だと思うので、できれば独立して、一冊として、刊行をしたいということになりました。予算がかかってしまうので、非常に苦しいところではあるんですが、近現代の中に入れるというよりは、別にしたほうが見る方にとっても、いろんな分野からみることができるのでいいんじゃないかなっていうのが、私たちの考えです。文化課の方には迷惑をかけてしまうんですが、その件については実行していただければと思っています。

成田委員長：ありがとうございます。事務局のほうでなにかありますか、ご意見。

平野係長：建物について、どのように入れるかっていうのは、今年度に入って調べていくなかで出てきたところですので、また、部会長会議で諮りまして、編集委員会で決定したいと思っています。

成田委員長：ありがとうございます。他にございますか。近現代部会について。

ちょっと前に戻りますけど、大変失礼しました、近世部会について、何かございますか。

實形委員：近世の刊行計画の現状予定どおりですと、令和8年度が史料編6 近世1の刊行になってと思うので、そうすると3年でこの1冊を刊行する形になります。かなり厳しい状況にはあると思います。今年は資料調査を進めるとともに、古文書の翻刻ですね、解読して原稿にする作業が本格的に始まりますので、それに対する人員と予算ですね。それをこの3年度のなかで、うまく確保していくことが大事になってきますので、資料調査を進めるとともに、資料翻刻の作業、原稿化する作業を進めていくので、事務局のご協力をいただき、人員と予算を確保していただければと思います。

成田委員長：ありがとうございました。

大関委員：ただ今の實形委員の発言と、関わるところではあるんですけど、近世部会のほうで zoom で打ち合わせをおこなった際に、部会委員の方々のほうで、不安に思っていることがあるということで、できれば編集委員会皆さんのなかで、ある程度、その不安を共有して、決めていただきたいなと希望をうけております。それはといいますのは、ただ今の實形委員のお話にも関わりますが、編集作業にこれから入っていくにあたりまして、どういった状態で、自分たちが作った原稿というのを、事務局側にお渡しすればいいのかということが、かなり不透明であるということで、不安を抱いていらっしゃる委員が多くございました。

例えば考古であれば、おそらく図版等の関係もあって、インデザインできっちり組んで完成原稿をという形で出していると思うんですけど、時代時代によっては、執筆される先生方のご都合で、手書きで出している時代もあると思いますし、あるいは、ワードでかなりきっちりとはぼ固まった状態で出すところもあると思うんですけども、できれば、近世部会の方では、ある程度、テキストデータとして、ワードで資料を翻刻したもの等々をお出しして、そこから先の版組なんかは、業者さんのほうにお任せするようなかたちで、最低、近世部会委員のほうは、割り付作業程度で、もう手を放したいというような希望をもっています。

先ほど申しましたとおり、それぞれの時代での、ご都合等もありますし、例えば中世の盛本先生の話を受けてではないですけども、その時代、その時代で、こういうふうに組みたいというような、希望がどれぐらいあるかという違いがあると思いますけれども、今現時点で事務局のほうで、最低限これぐらいの状態にして、原稿を出して欲しいというような、ご希望であつたりとか、あとは、近世部会としては、組版からなにから全部、業者さんをお願いしたいという、言い方がちょっとよくないですけども、そのように考えています。そのように進んでも、特段問題がないのかということについて、少しお聞かせいただけたらなというふうに思っておるんですけども。

成田委員長：同じようなことはほかの部会でもあります。

平野係長：執筆要項では、ワード原稿による入稿となっております。そのワード原稿のレベルと

うか、どこまで作ってくるかというところをおたずねなのかなと思います。とにかくテキスト入力最低限ですけども、それ以上について、例えば割り付けまで、どのようにするかについては、各部会にもお話をうかがわなければならないと思っております。

現在のところ事務局は、割り付けまではともかくとして、テキストでは入稿していただきたいと考えています。

ただ実際にやってみたところでは、割り付けについても、やはり、こうでないということが出てきたりするので、いかがなものなのかというところは実感としてはあります。業者のほうと文化課で組んでみて、第1稿があがってきた段階で、あまりにも、自分たちの思うものと違うとなってしまうと、余計校正時間がかかってしまうということが大変感じたので、そのあたりは、逆にお任せいただけるものなのかどうか。

成田委員長：少しよろしいでしょうか。この話題については、部会長会議で、細かく検討された方がよろしいのかなと思います。

平野係長：委員長のほうからご発言いただきまして、まだ皆さんに通知は出していないんですけれども、夏あたりには部会長会議をおこないたいと思っておりますので、そのところで、どの程度までが最低ラインなのか、あるいは皆さんがご納得いただける、レベルになるのかというところを、話し合いができればと考えますがどうでしょうか。

成田委員長：部会長が一番気にしているところです。

大関委員：私もこの場所よりは部会長会議で、細かくつめられるとは思ったんですけども、あまりにも、いまのところ情報が、とにかく足りなくて、どうしたらいいんだろうという、すごく、部会委員が不安を持ってらっしゃったのは事実なので、このような考え方が部会委員のなかにあるということを、ちょっと念頭に置いていただいて、部会長会議のほうで、しっかり細かく決めて、全部会委員に伝わるようにしていただきたいと思っております。

成田委員長：こうしたことを部会長会議できちっと、討論しますという話を皆さんに伝えていただきたいと思います。

近世部会については、よろしいですか。では民俗部会。

島立委員：民俗部会の島立です。民俗部会につきましては、ここに部会長名、空欄になっていますが、あいかわらず部会長が空席のままになっております。その点で非常に事務局の皆さんにはご迷惑をおかけしているところです。なかなか部会委員が集まらないという状態なのですが、今年度以降ですね、少しずつ調査を進めて、報告書刊行に向けての調査を海の民俗から進めていきたいと思っております。

成田委員長：ありがとうございました。民俗部会についてなにか質問はございますか。

よろしいですか。

自然部会。なにかご質問がございますか。私が自然部会ですけれども、資料のとおりで変更はないんですが、訂正というか、こちらもいろいろ迷っているところがあります。タイトルなんですが、令和6年度活動計画のところに、木更津市史自然編（本編）とあるんですが、編集方針をみますと、総論、資料編とあわせて本編というふうに書いていたので、正確にいうと、ここでいう本編というのは総論としたほうがよろしいのかなと。

そのほかについては、現在のところ、木更津市史の自然編の総論の目次案を部会内で検討することになっています。基本的な考え方としては、まだはっきり決まっているわけではありませんけれども、より見やすくするというふうな方向で変更していくことになっております。私のほうからは以上ですが何か質問はありますか。

全体についてなにか質問はありますか。いいですか。

それでは、質問がないようですので、次の報告を事務局からお願いします。

平野係長：史料編4 古代刊行及び自然編資料公開について報告します。新しい市史は、歴史を通史的に記述する通史編、基本資料を集めた史料編、伝統行事や風俗慣習などの民俗編、自然についての自然編で構成し、令和12年度を目途として、市史編さん部会委員を中心に編集さんしているものです。

昨年度刊行した「木更津市史 史料編4 古代」は、さまざまな文献にあらわれた、木更津周辺地域について取り上げており、古代木更津の様子を知ることができます。

295ページA4版、3千円となっております。こちらは文化課で購入することができます。

また、「木更津市史 自然編 資料」は、木更津市の自然について、地学、植物、動物の分野にわけて記述されているものです。1,265ページ、木更津市史デジタルアーカイブで、無料でご覧いただけます。こちらにつきまして、ただいまからプロジェクターで、実際に提示したいと思います。

【木更津市史デジタルアーカイブをプロジェクターで提示する。】

こちらは木更津市役所の公式ホームページになっております。トップページ下部の関連サイトのところに、デジタルアーカイブのバナーがあります。

以前からの検地帳、それから、木更津市の城、一番上に新しく編さんされた「木更津市史 自然編 資料」がございまして、目次から各ページにとべるようになっておりまして、例として第1章の第1節、クリックしますとそちらのページにとびます。こちらは拡大や、縮小ができて、ページも矢印でとぶか、こちらでとび、詳しく見れるようになっています。

4月の公開以降、アクセス数はのべとなりますが、約6,000件までのびておりまして、3月までは約3,000程度でしたので、2倍のアクセス数、5月については、約13,000件のアクセス数がありました。

ページをめくるごとにアクセスとなるので、何人がご覧かってことは、はっきりとはわかりませんが、アクセス数としてはそのような結果になっております。6月も約3,000件となっております。

成田委員長：ありがとうございました。いま報告がありましたけれども、史料編古代についてご質問がありますか。

駒委員：質問です。近世部会は週に1回集まって仕事をしているので、お互いの意見交換はスムーズになされてるんですけども、史料編が各委員のほうには配布されないという話を聞きました。近世部会では、時代が違っても見たいという話があります。希望者に配っていただくということはできるのでしょうか。

成田委員長：事務局おねがいします。

平野係長：今回300部刊行となっております、全委員に配れるかというところなんです、他の部会からは、いや、いらないよというところもありまして、各部会には一冊ずつ、体裁を合わせたり、紙のようすであるとか、そういったことの参考にいただきたいという声が上がっていますので配りますが、部会委員については、前後の時代でもないんだったら必要ないというご意見もいただいてまして、その件につきましても、部会長会議のほうで伺いたいと思います。

駒委員：わかりました。

成田委員長：ありがとうございました。他にございますか。よろしいですか。

それでは資料編のネット公開についてですけど、質問ございますか。

大関委員：さっき開いていただいているときに、確認すればよかったんですけども、前にデジタル公開しますっていったときに、検索機能がどうかという話をしたと思うんですけど、先ほどの自然編は検索することはできるのでしょうか。

平野係長：すみません、確認をしていなかったもので、確認をして、報告をしたいと思います。

成田委員長：そのほかございますか。

實形委員：先ほどウェブ上で見ましたが、印刷したいって人はでているのでしょうか。これって

印刷できない。

平野係長：印刷したものを今年度刊行しますので。

實形委員：今ホームページを見た人で、これは印刷できないじゃないですか。

平野係長：印刷できないです。

實形委員：これを印刷したいって人は、刊行されるものを待つというかたちですか。

以前は紙媒体で刊行しなかったら、ホームページから、ウェブ上で印刷できるってことになっていましたが、自然編は今年度刊行されて、ずいぶん厚いものになるんでしょうか。

平野係長：約1, 300ページです。

實形委員：A4で1, 000ページ以上。

平野係長：3分冊です。

實形委員：わかりました。

成田委員長：ありがとうございました。他にございますか。

盛本委員：質問っていうんじゃないんですけど、今ちょうど大河ドラマでね、古代をやってまして、そこに出てくる人の、日記とかね、史料編4古代に出ています。そういうのとちょっとタイアップして宣伝をすると、いいんじゃないかなと思います。この小右記とかね、御堂関白記とかね、あと更科日記なんかも、…出るかわからないんですけど、道長と紫式部なんかと関連するんですよ、更科日記の作者のおばが蜻蛉日記の作者にあたりますので。蜻蛉日記の作者のほうは、出てましたね。更級日記の作者も、私個人としては最後のほうでドラマに出るんじゃないかって予想してます。せっかくの機会なので、ドラマに出てくる人が載ってますよ、って宣伝してもいいんじゃないかなと思います。

成田委員長：ありがとうございました。そのほかございますか。

よろしいですか、ちょっと確認ですけど、自然編のアクセス数は月ごとに outs することができるとはなすか。

平野係長：総計では出すことはできますが、一般の方が見ることはできません。管理画面からなので、文化課しか見れないですけども、月毎、日毎に確認できます。総アクセス数は、

現在 22 万 8 千、約 23 万というところです。始まってからいまで。

成田委員長：今まで。だいぶ前から始まってますよね。

平野係長：ただ、今年の 3 月に比べ、4 月は 2 倍のアクセス数になっています。

成田委員長：ああそうですか。3 月と、4 月を比べて。2 倍。

平野係長：2 倍です。令和 6 年 3 月が、2, 259 件でしたが、4 月が 6, 355 件、5 月が 13, 550 件、6 月が 6, 282 件、となっております。

成田委員長：目次ごとに、クリックすると、3 回打てば 3 回ということになっちゃうんですね。

平野係長：そうです。見てくださっているのが何人なのかはわかりませんが、3 月にくらべアクセス数は 3 倍以上になっているというところは明らかになっていると思います。

成田委員長：ありがとうございます。他にございますか。よろしいですか。

それでは、報告事項がおわりましたので、その他、全体をとおして、質問等がございましたら、おねがいします。

石和田委員：次号の市史研究の予定というのはどういうふうになっているのでしょうか。

平野係長：今年度は、予算等はつけておりませんで、来年度、発行に向けて、検討させていただいているところになります。令和 7 年度に刊行できるように、努力をしてみたいです。

成田委員長：わかりました。今のお話のとおりですけれど、投稿したいならば、今から準備して、令和 7 年度に掲載ですね。

平野係長：市史編さんよりは、11 月ごろに刊行予定ですので、そちらにのせるということも考えられます。内容としてふさわしければ、こちらにのせることができます。市史研究にのせるようなレベルのものになると、令和 7 年度にむけて努力させていただくので原稿を準備していただければと。

成田委員長：いいですか。ありがとうございます。その他ございますか。

實形委員：その他になりましたので、せっかくですので、お手元に国土地理院のホームページから資料をお配りしました。これはどういうことかといいますと、先月 6 月 27 日に、自

然災害伝承碑で追加登録された碑があります。木更津市の碑が1個、市内椿の白山神社の境内にある、震災記念碑が登録されたってこと、お知らせするという形になります。

昨年はちょうど関東大震災、100年ということで、いろいろ注目されていたんですけど、椿のこの震災記念碑は、その一年後に碑がたてられていますので、ちょうど今年100年というかたちで、100年前の、先人が、子孫にむけて、被害の実態を、石碑に刻んで残したということで、自然災害伝承碑として、国土地理院のほうに登録されたってことをお知らせします。以上です。

成田委員長：ありがとうございました。その他まだございますか。

佐藤委員：郷土博物館金のすずの館長の佐藤と申します。この4月から、着任をいたしました。

よろしくお願いいたします。口頭での連絡になってしまいますが、当館からのお知らせです。館内にエレベーターがございます。これは体の不自由な方であったり、大きな収蔵物を運んだりするとき使うものなんですけれども。これが今年改修工事に入ります。

12月から2月末まで3か月間、閉館はいたしませんけれども、一部閉鎖するところがございます。2階の一部のみ、開館していく状況でございます。

工事関係がありますので、荷解室のほうが使えないような状況であったり、収蔵庫からの持ち出しも難しいという状況になります。

委員に皆様にはご迷惑をおかけしますが、調査等でご利用になる場合には、11月いっぱいまでか、3月からということでお願いいただければということです。

ただし、その間でも、やむをえず見せてもらえないか、確認できないかということは、ご相談いただいて、できるだけ対応していきたいというふうに思いますのでよろしくお願いいたします。以上でございます。

成田委員長：他になれば、これで終わりしたいと思います。

質問がないようですので、本日の議題は終了とします。それでは、議長の職をとかせていただきます。ありがとうございました。

平野係長：成田委員長、議事進行ありがとうございました。以上を持ちまして、第1回木更津市史編集委員会を終了いたします。

なお、次回の市史編集委員会は、12月を予定しております。

本日は、ありがとうございました。

令和6年7月22日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 成田 篤彦